

2021年4月

関係各位

東京理科大学大学院経営学研究科技術経営専攻

## 【MOT シンポジウムのご案内】「東芝問題再考」

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

東京理科大学 MOT では、従来より公開授業、各種シンポジウム、セミナーなどを開催して、学外に向けて広く、本専攻の活動や教育研究の成果を公表して参りました。

この度、新年度を迎え、2021年5月17日(月)18:30~20:00に、「東芝問題再考」をテーマとした MOT シンポジウムをオンラインで開催いたします。

再び、東芝に関して、問題が再燃しております。昨年より、アクティビストとのフリクションがありましたが、今回は、突然の CVC からの買収提案、この結果、車谷 CEO 辞任という事態になりました。

今回の件も、東芝だけの問題ではなく、アクティビスト、もの言う株主も含め、多様なステークホルダーとの対話、ガバナンスなど示唆に富むケーススタディとなります。

また、関連して、カーブアウトされたメモリ部門のキオクシア上場の問題は、ポートフォリオや事業ドメインの観点、また半導体のサプライチェーンや米中摩擦の視点でも重要です。

本専攻 (MOT) の若林秀樹専攻長・教授が提唱した経営重心分析では、なぜ東芝のポートフォリオが失敗し、メモリや原子力事業を外に出したのか、明らかになりましたが、それを資本コストや割引率にも絡めて、80年代から2000年以降の不正会計を振り返り分析します。若林教授は、長年、90年代から2005年まで、野村総研、欧州系外資、米 JP モルガン、みずほ証券でセルサイドアナリストとして、電機・半導体でアナリストアンキングで1位5回、その後、ヘッジファンドでもファンドマネージャーの立場から、東芝をウォッチ、その後は、NO サイド、アカデミックの視点から、東芝問題をフォローしております。若林教授の東芝に関するコメントは、日経の経済教室はじめ、多くのマスコミや専門誌などで取り上げられ、ニュースピックスでも5万フォロワーを有するプロピッカーとしても注目されてきました。

これを、価値創造で著名な(株)バリュークリエイトの佐藤明氏(本学非常勤講師)と対談しながら、問題の本質に迫ります。東芝問題だけでなく、日本や海外のGEなどの企業、ベンチャー企業などの課題も含め、示唆に富む対談となるでしょう。

本専攻の活動に関心を持たれている方、将来の入学を検討している方をはじめとして、広くご参加いただければ幸いに存じます。

敬 具

記

1. 日 時 2021年5月17日(月)18:30~20:00

2. 開催形式 遠隔 (Zoom) によるオンライン開催

・下記サイトから申込された方に前日までに参加用 URL を送付します。

3. 当日の次第 (予定)

ご挨拶・趣旨説明 若林秀樹 MOT 専攻長・教授

対談 若林秀樹 MOT 専攻長・教授

佐藤明 (株)バリュークリエイト パートナー

#### 4. ご出欠について

下記、URL から申し込みをお願いします。（締切は前日 17:00 を予定）

<https://www12.webcas.net/form/pub/tus-mot/form0517>

【お問い合わせ先】 [mot-tus@rs.tus.ac.jp](mailto:mot-tus@rs.tus.ac.jp)

#### 5. 登壇者略歴

若林秀樹 MOT 専攻長・教授

アナリスト&機関投資家の立場から電機産業をウォッチ。JEITA 政策提言タスクフォース座長。  
経済産業省 半導体・デジタル産業戦略検討会議メンバー（現）。

佐藤明 株式会社バリュークリエイト パートナー

1987 年野村証券グループ入社、以後 1989 年に同社証券アナリスト。

2001 年 5 月に株式会社バリュークリエイト設立。

デジタルハリウッド大学でコーポレート・コミュニケーション論准教授、海外資産運用会社、レオス・キャピタルワークス株式会社、長期投資のコモンズ投信取締役などの社外取締役を経験。  
現在、株式会社ソケッツ（東証マザーズ）の社外取締役を務める。

また 2020 年から東京理科大学非常勤講師を務める。

以 上